

# 菜の花

——春の新七草の賦のその一つ——

長谷川時雨

青空文庫



水油なくて寝る夜や窓の月（芭蕉）

の句は、現代のものには、ちよつとわかりにくいほど、その時代、またその前々代の、古い人間生活と、菜の花との緊密なつながりを語つてゐる。いま、わたしたちが菜の花を愛するのもしやうした祖先の感謝をもつて、心の底に暖かみを感じてゐるのかも知れない。日の光りと、月げつくわう光と、薪まきの火と、魚油ぎよゆしかなかつた暗いころの、燈ともし油あぶらになるなねの花は、どんなに大切なものであつたらう。そのほかの、菜の花とよばれる幾種類のもものが、みんな、われわれの生活に必要であることは、今日でも變りはない。

菜の花は、誰にも親しみをもたれてゐる一般的な花だ。葉の中にかじかんであるまだ青い時分から、伸びきつて、種になつてゆく末まで、一莖の姿もよければ、多ければ多いほどよく、花の集まつた美觀は、春の新七草のなかでも、豊けさにおいて第一といへよう。大きな眺めでありながら、平凡な、民衆的美觀ともいへよう。

古くは雪間の若菜として、いさぎよい青さと珍しさをめでられたが、近代人の感覺は、春の色の基調として菜の花の「黄」を推奨する。灼熱かじつくなみの夏日の紅に移る一步前、陽光さんと降りくだつて、そこに菜の花は咲きつづき、和やはらぎと喜びの色に照りはえ、展のべひろ

げられ、麗かに、閑のどかに國を包んで、朝に明あけ、夕べに暮れてゐる。

菜の花は平和を好む蒼人艸に似て、親しみぶかい花だ。

(「東京日日新聞」昭和十一年四月十六日)

# 青空文庫情報

底本：「桃」中央公論社

1939（昭和14）年2月10日発行

初出：「東京日日新聞」

1936（昭和11）年4月16日

入力：門田裕志

校正：仙酔ゑびす

2008年12月7日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 菜の花

——春の新七草の賦のその一つ——

2020年 7月18日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

著者 長谷川時雨

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>